



10 「対話的な学び」を視点とした授業改善の実践

📌 こんな実践

意見を一つにまとめる話合いの場面で、互いの考えを検討せずに一人の考えだけで決まってしまうことはありませんか。この実践は、話合いのポイントを活用し、互いの考えを大切にしながら話し合う力を育てていくことを目指した実践です。

実践学校 N小学校

実践学年 5学年

実践時期 10月上旬

単元名 「私たちの身の回りの問題をグループごとに提案しよう」

学習指導要領との関連 A 話すこと・聞くこと (1) オ



- 本時は、よりよい暮らしをつくるために、「プラスチックゴミの問題」や「ゴミの分別問題」など、グループごとに提案する問題を話し合っ決めて決める場面でした。どうやって話し合っければよいかをA先生が聞くと、子供たちは前時までの学習の中から生まれた【話合いのポイント】を想起しながら、「理由を尋ねる」「意見を受け止める」「次へ進める言葉を使う」などを出し合い、それらを使って、互いの考えの共通するところを見付けながら、提案する問題を決めていくという見通しをもっていきました。

前時までの学習の中から生まれた【話合いのポイント】

- ・相手に理由を尋ねる言葉 「どうしてそう思うの」「もうちょっと教えて」
- ・自分の考えの理由を伝える言葉 「なぜかという、～だからです」
- ・「理解した」ということを伝える言葉や態度 「確かに」「なるほど」うなずいて聞く
- ・話に区切りをつけ、次へ進める言葉 「それなら、こうしたらどうかな」

この【話合いのポイント】が学習の中で共有できていたことによって、子供たちは、「理由を聞くと、どうしてその問題を提案したのかがわかる」「うなずいてもらったり、『なるほど』と言ってもらったりするとうれしいし、安心できる」とその大切さを感じながら話合いに臨みました。

- 話合いの際に、もう一つ子供たちの拠り所となったのが、ホワイトボードにそれぞれの考えを書き、見えるようにしたことです。A先生は、各自の提案したい問題やその理由をホワイトボードに端的に書く場面を位置付け、子供たちが互いの考えを比較・分類・整理しながら共通点を探り、提案する問題を定めることができるようにし

ました。次のやりとりは、実際の話合いの様子です。

Bさん（ホワイトボードに班員の提案したい問題やその理由を端的に書き出す）

Cさん「Bさんのプラスチックゴミの問題の原因は、ポイ捨てだよね。（『ポイ捨て』と書き込む）新聞にも載っていたし、今、問題になっていると思う」

Bさん「ポイ捨てが関係しているかも。Cさんの提案したいゴミの分別問題も、何も考えずに捨ててしまうことがいけないから」

Dさん「僕の食品ロス問題も生産者が一生懸命育てたのに、少し色が変わったからといって簡単に捨ててしまうことが問題だと思う」

Bさん「そうか。提案する問題をポイ捨てとして、何も考えず捨てた後どうなるかや、物を大切にすることを伝えたらどう」

Dさん「そうだ。ポイ捨て問題にしよう」



Bさんが書き出した各自の提案したい問題を見ながら、Cさんがホワイトボードに「ポイ捨て」と書いたことで、BさんやDさんの「共通するところを見付ける」という視点が生まれやすくなったと考えられます。そして、各自が考えた問題の原因を切り口に、共通点を探っていく中で、Bさんが次へ進める言葉を使って話合いを進めていきました。子供たちの学習の中から生まれた【話合いのポイント】と、A先生の「互いの考えを大切にしながら話し合う力を育みたい」という願いから生まれた「考えの見える化」の手立てが、このような子供たちの姿につながっていったと考えられます。



ここがポイント！

- ・【話合いのポイント】のような話合いの観点が日常的に共有されていたことで、実際の話合いの場面で友の考えと自分の考えとを関連付けることにつながりました。
- ・ホワイトボードに提案したい問題やその理由を端的に書いたことで、互いの考えが見えるようになり、そこから共通することを見つけて、話合いが進むことにつながりました。

まとめ

- ・互いの提案したい問題の共通点に着目して、自分の考えと友の考えとの関係性を見出し、提案の方向についてまとめていった姿は、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりするという資質・能力につながっていくと考えられます。